

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター西尾市立白ばら園		
○保護者評価実施期間	令和7年1月20日		～ 令和7年2月3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45 (回答者数)	44
○従業者評価実施期間	令和7年1月20日		～ 令和7年2月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25 (回答者数)	25
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多職種の職員(保育士、公認心理士、OT、PT、ST)が支援にあたっており、お互いに連携することで支援内容の充実が図れる。	・児童発達支援管理責任者、専門職とでカンファレンスを行い、支援計画を作成している。 ・専門職が療育室等で子どもの姿を担当と共有し、訓練等のカンファレンスを行っている。 ・相談支援専門員がセンター内にいるため、支援の共有ができる。	・職員間の連携を深めるため、ケース会議を行ったり日々の振り返りを共有したりしていく中で他クラスの支援の工夫を知り、スキルアップに繋げていく。 ・他事業所を利用している子どももいるため、他事業所との情報共有を行う。
2	・隣接している室場保育園との交流を行っている。	・毎月の交流会議では関係者が参加し、誕生会やその他行事の交流の計画、体験交流やクラス交流等の計画を練っている。	・今後も交流会議で計画を立案するが、各クラスでも療育のプログラムの立案時に移行に向けた支援やインクルージョン推進の観点から支援を行っていく。 ・室場保育園と交流した様子をハグノートでお知らせしていきます。
3	・白ばら園入園時、移行支援時には支援の一貫性の観点から関係機関と支援内容等の情報共有を図っている。	・療育センター、市内小学校、特別支援学校、保育園、幼稚園、行政等とも連携を取り合いながら支援の継続に努めている。 ・切れ目のない支援の継続のため、必要に応じケース会議を行う等している。	・今後も医療、福祉、教育等の関係機関との連携や相互理解を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・きょうだい支援の充実が図れていない。	・人的要因やスペース不足から、療育中や園行事の時に預かりをすることが難しい。 ・きょうだい支援の機会を設けていない。	・園行事の保護者やきょうだいの参加方法を行政とも相談しながら検討していく。 ・きょうだい支援につながる行事等の実施方法や内容を検討し、年間計画に取り入れる。
2	・就学や移行に向けた地域との交流の内容や回数の検討の必要性がある。	・人員不足や入学、入園決定時期から、交流の回数を増やすことが難しいが、内容や方法を検討できるとよい。	・移行支援に向けた保育園、幼稚園との交流や情報交換等、行政とも相談しながらセンターの中核機能強化のため、地域と連携した療育の支援ができるよう検討する。
3	・地域とのつながりが少ない。	・慣れない環境が苦手な子どもも多く、いつもと違う活動に対して不安になりやすく配慮が必要である。	・一人一人の特性等があり難しさを感じるが、散歩へ出かけた時に地域の方と挨拶を交わすことから地域とのつながりをつくっていく。 ・今後も室場ふれあいセンターの行事に参加し、子ども達の作品を展示していくことで地域へ自園の様子を伝えながら地域の中で育つ園をめざしていく。